

第四十六回
幕末の築上町

写真は小倉小笠原家の家紋「三階菱」を刻む棟瓦（屋根の棟に用いる瓦。鬼瓦も棟瓦の一種）です。平成二十五年に中央公民館の倉庫整理をした際に発見され、文化財保護係に移管されました。

幅四十六字×高さ三十三字×厚み十二字で、やや奥行きのある棟瓦です。瓦の裏面を見ると漆喰が付着し、緑青の付いた銅製針金が巻かれていることから比較的最近まで屋根に葺かれていたものと考えられます。瓦の側面には「文久四子三月下向弓ノ師村 瓦屋」と線刻による文字が彫られていました。

文久四年は西暦一八六四年で、同年途中で元治元年に改元されます。なお、この四年後は明治元年ですので、まさに幕末期に作られた瓦と言えるでしょう。当時は村毎に瓦屋があり、職人が用途に応じ、瓦を生産していました。伝世品や記録等から弓ノ師以外でも小山田・水原・白田等に瓦職人がいたことがわかっていきます。また『築城町誌』には戦時中まで上築城に瓦屋があり、大野神社近くの作業場で瓦を生産し販売していたと記されています。

さて、前記の瓦が作られた文久年間（一八一六～一八六四）はどんな時代だったのでしょうか。文久三年五月、小倉藩と関門海峡を隔て対岸に位置する長州藩は同海峡を通る外国船を砲撃しました。長州藩は尊王攘夷を掲

げ、幕府の政策に批判的であるのに対し、小倉小笠原藩は佐幕派（幕府の味方）であったため長州藩による強圧的な態度に苦慮していました。そうした中、小倉藩では度重なる外国船の往来や外国人の上陸事件に対する危機感から、農兵を組織し海岸防備に努めます。農兵の募集に応じた者には苗字帯刀が許され、一定の格式が与えられたこともあり、大庄屋等の有力者の応募ですぐに定員に達しました。築上町でも、松尾家旧蔵文書「御触書願書控」によると、築上郡八田手永では、小山田村、東八田村、西八田村、宇留津村、上築城村等から庄屋、大庄屋ほか村役人層の人々が農兵募集に応じたことがわかります。また沿岸警備のための砲台を緊急に整備するため、大砲鑄造に必要な銅を領内寺院の梵鐘供出で補いました。この毀鐘鑄砲令は幕府の政策として、安政二（一八五五）年と文久三（一八六三）年の計二回発令されていますが、安政二年においては寺院側の強い反対もあり、小倉藩では梵鐘の所在調査が行われたのみで、実際に鐘が徴発されることはありませんでした。神家文書には安政二年の毀鐘鑄砲令に基づいて水原村長壽寺、上本庄村天徳寺、下本庄村浄徳寺、伝法寺村忍誓寺等にある鐘の大きさや銘文、鑄造年代等を調査した記録が含まれています。この後の文久三年の毀鐘鑄砲令では多くの

鐘が現実に鑄潰され、大砲等に姿を変えました。前掲安政二年の調査記録に記載された鐘の内、長壽寺、天徳寺、忍誓寺の鐘はこの時毀鐘の難を逃れましたが、忍誓寺の鐘については、昭和十六（一九四一）年の金属回収令により戦時供出されています。こうして領民の負担が増す中、元治元（文久四・一八六四）年さらに幕府による第一次長州征伐が実行に移されます。佐幕派の小倉小笠原藩は幕府方として長州と対峙することになります。結果的に長州藩内の内部分裂により佐幕派が実権を握り、戦闘には至りませんでした。

（文化財保護係 馬場克幸）



中央公民館倉庫に保管されていた三階菱 棟瓦。側面には「文久四子三月下向 弓ノ師村瓦屋」とある。



NPO 法人しいだコミュニティ倶楽部からのお知らせ

しいコミパークゴルフ大会参加者募集！

日時 6月20日（土）
※雨天時6月27日（土）に順延
会場 築上町パークゴルフ場
参加対象 築上町民
定員 しいコミ会員20名・会員外10名
参加費 会員700円・会員外1,000円
競技方法 18ホールの合計打数
締切 6月12日（金）*定員になり次第締切

障害者スポーツボランティア養成講習会受講者募集

障がい者と健常者が一緒に楽しめるスポーツ活動をサポートできるボランティア養成講習会を実施します。
みなさん！スポーツを楽しみながら地域貢献してみませんか？

日時 7月19日（日）・26日（日）の2日間
場所 19日 午前（講義）：中央公民館
午後（実技）：椎田体育館
26日 午前（講義）：コマレ女性ホール
午後（実技）：椎田体育館

参加費 無料
定員 20名（定員になり次第締切）
主催 NPO法人しいだコミュニティ倶楽部
後援 築上町教育委員会
協力 福岡県障害者スポーツ協会
九州共立大学ASスポーツ研究会

【修了者には修了書（認定書）が賦与され、クラブスタッフ登録が可能となります】

申込・問い合わせ：NPO法人しいだコミュニティ倶楽部事務局 TEL 56-0075



▶ 26年度優勝の山本順さん（中央）